

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 鯖江市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: つつじ線、越前観光線、鯖江交通線、鯖江高速観光線

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者等の名称を記載】	【系統名・路線名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両設備更新等及び公共交通方式車購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改善補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A ・ B ・ C 詳細	A ・ B ・ C 詳細	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善案は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取組等についても広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
つつじ線	つつじバス (循環線、神明線、片上・北中山線、立待線、河和田線、通学便市内高校ルート、通学便片上・北中山ルート、通学便立待ルート)	【前回の評価内容】 ①再編以前に比べて利用者数が低水準の原因や対応策の検討を行い、協議会で共有すること。また、議事録や評価結果については定期的に情報公開を実施すること。 ②バスの運行情報をリアルタイムで収集していることを活用し、即時的な課題への対応を期待する。 ③再編実施計画の計画期間が令和4年3月までとなっていることから、計画の目標や実施内容について見直しを行って下さい。 ④公共交通の安全性(新型コロナウイルス関連)について様々なツールを用いて発信を行い、利用促進に繋げてほしい。	令和4年4月のダイヤ改正に向けての準備に時間をかけていたため、計画に基づく事業すべてを適切に実施は出来なかった。 ただし、コミュニティバスの運行事業の安定化に向けて、大型モニターを活用した新たな広舎制度の開始を行った。また、利用者増加促進に関しては、これまで広報誌のみで冬季通学便の運行開始を案内していたところを、市の公式LINEを使っての案内を行うなど、利用者の大半を占める学生に向けてのPRを行うなどに努めた。	○再編前参考数値 【H28】H28.4～H29.3 実績 183,083人 ○目標・実績 【H29】H29.4～H29.9 目標 227,800人(*113,900人) 実績 69,950人 【H30】H29.10～H30.9 目標 228,500人 実績 136,190人 【H31】H30.10～R1.9 目標 229,200人 実績 144,734人 【R2】R1.10～R2.9 目標 229,900人 実績 112,368人 【R3】R2.10～R3.9 目標 230,600人 実績 107,021人 ※一便あたりの利用者数推移 ○O線 【H29】→【H30】→【H31】→【R2】→【R3】 循環線 【7.47】→【6.90】→【7.57】→【6.11】→【5.99】 幹線 【12.08】→【10.22】→【10.21】→【7.91】→【7.48】 鯖江南・新横江線 【2.98】→【2.58】→【3.43】→【1.92】→【1.26】 神明線 【4.64】→【4.66】→【4.98】→【4.23】→【4.13】 片上・北中山線 【5.53】→【4.87】→【4.16】→【3.35】→【3.57】 立待線 【5.66】→【6.08】→【5.26】→【4.52】→【4.12】 吉川線 【7.08】→【6.16】→【6.30】→【5.18】→【5.02】 豊線 【7.28】→【6.97】→【6.14】→【4.12】→【4.45】 中河・北中山線 【3.75】→【3.72】→【3.90】→【2.49】→【2.18】 河和田線 【14.50】→【13.24】→【12.79】→【9.21】→【8.82】 通学便 市内高校ルート 【9.12】→【11.85】→【10.54】→【7.09】→【5.63】 *片上・北中山ルート 【0.46】→【1.82】→【1.41】→【0.41】→【0.44】 *立待ルート 【0.91】→【2.02】→【3.02】→【2.55】→【2.65】 *吉川ルート 【0.19】→【1.04】→【1.75】→【2.73】→【2.22】 *豊ルート 【0.42】→【0.76】→【1.41】→【0.34】→【0.21】 *中河・北中山ルート 【0.19】→【0.46】→【0.13】→【0.06】→【0.28】 河和田ルート 【3.25】→【3.43】→【3.97】→【4.27】→【4.91】 ○分析 令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、出控えによる乗客の減少が目立った。 また、1月には大雪に伴う運休が1週間ほど発生したため、乗客数の減少となった。 新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、公共交通から離れてしまった利用者の方々も多くなるものと推測しており、一度離れてしまった利用者を取り戻すのは容易なことではないが、もう一度利用者の定着に繋がるような利用促進策を図る必要があるものと考えている。 現状のダイヤや路線については、乗継ぎがうまくいっていない時間帯も多くあり、また利用者から路線の再編や土日運行便を増やして欲しいとの声が多くある。 それらの意見を踏まえた上で、令和4年4月に実施予定のダイヤ改正を行い、利用者の利便性の増加を図り、再度市民の公共交通ツールとして利用の定着を図る。	
越前観光線	つつじバス (循環線、幹線、鯖江南・新横江線、豊線、河和田線、通学便市内高校ルート、通学便豊ルート、通学便中河・北中山ルート、通学便河和田ルート)	【事業の実施内容】			目標については現状に見合った数値とはかけ離れてしまっていることから、現状に見合った目標への修正を行う。 今後の事業内容については、令和4年4月に実施予定のダイヤ改正に向けて、市内中心地を走る循環線へ各地区からの便が接続し、乗継時間を抑えて、利用者が移動できるようなダイヤの設定を行うことを考えている。 また、ダイヤの大幅な再編実施により、これまでのダイヤで利用していた利用者に混乱が生じ、さらなる利用者の減少にならないよう必要としないようについては広報などを通じて利用者への周知を徹底する。
鯖江交通線	つつじバス (循環線、吉川線、通学便吉川ルート)	①過去の乗客聞き取りアンケート結果や各バス停毎の利用状況、利用時間帯の確認の実施。 令和4年4月のダイヤ改正に向けて、ダイヤ内容の検討材料として活性化協議会内で共有。 議事録や評価結果については過去のものも含め、ホームページ上で掲載。 ②リアルタイムの運行情報収集(乗降客数など)については正確性がなく一旦装置を撤去。バスロケーションシステムについては利用促進を引き続き行う。			また、引き続き高齢者サロン等に赴き、乗り方やマイダイヤの作成といった出前講座の実施についても積極的に行っていき、現在の利用者離れの食い止めと高齢者のライターの取り込みおよび定着を図る。
鯖江高速観光線	つつじバス (循環線、幹線、鯖江南・新横江線、片上・北中山線、立待線、中河・北中山線、河和田線、通学便中河・北中山ルート、通学便河和田ルート)	③利用促進実施計画の策定にあたり、上位計画である地域公共交通計画における計画目標、実施内容、今後の事業内容について協議会内で協議を実施。 ④市のホームページにてコミュニティバスに車内抗菌を実施した旨および市内の交通事業者は新型コロナウイルス対策を行って運行を行っている旨の掲載を実施。			

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	鯖江市地域公共交通活性化協議会
-------	-----------------

評価対象事業名:	鯖江市地域公共交通活性化協議会
----------	-----------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>鯖江市は、中心部はJR北陸本線と福井鉄道福武線の2社の鉄道が縦断していることにより公共交通の利便性が確保されているが、鯖江市西部は日野川により、鯖江市東部は東部に長くのびる地理により中心部へのアクセスが制限されている。高齢化による運転免許返納や市中心部への医療施設・商業施設の集中により、東西の集落と市中心部を結ぶ公共交通による移動手段はますます重要となってきている。今後も市中心部への拠点集中が見込まれることから、鯖江市は「どこにでも歩いていけるまち」をスローガンに、高齢者だけでなく市民全体が公共交通による利便性を享受できるよう公共交通網の整備を図る必要があると感じている。</p>
-----------------------------	--